

令和2年度 後期学校評価集計結果について

中央市立田富中学校
校長 山本 成利

はじめに

本校の保護者、生徒、教職員に対して令和2年12月に今年度2回目のアンケートを実施しました。アンケートの結果を考察し、自己評価を行いました。これを来年度の学校経営に活かしていきたいと思っております。

1 アンケート項目について

アンケート項目は今年度見直しを行い、より学校教育目標や学校経営方針が反映されるようにしました。また、年2回実施とし、年度内に取り組むべき内容については年度内に対応していきたいと考え、実施してきました。

2 評価について

「令和2年度 教職員・生徒・保護者の学校評価平均点」「学校評価計画」と今年度前期との比較をしました。

(1) 評価平均点から考える「努力したい項目」「改善が必要な項目」

- * 評価は4段階で実施し、平均値を2.5と考えました。
また、評価平均点の数値を次のように判断しました。
 - 3.0以上「概ね良好」
 - 2.5以上3.0未満「努力したい項目」
 - 2.5未満「改善が必要な項目」

(2) 前期学校評価との比較

- * 前期の質問内容との変化を見ました。

(3) 肯定率から

- * 評価を4(そう思う)と3(ややそう思う)と、肯定的評価をしている割合を肯定率として算出してみました。90%以上を、取り組みの成果が出ている項目、70%以下を、本校の課題として改善が必要な項目として判断しました。
 - 90%以上を三者(保護者・生徒・教職員)が評価している項目は、前期の7項目から6項目へ減少しました。
 - ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
 - ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てている
 - ・行事や生徒会活動、部活動を通じて、心身ともに成長している
 - ・生徒の健康管理や安全に配慮している
 - ・正しく生きることについて考えたり、やさしい心・思いやりの心で生活している
 - ・学校・学年・学級だよりなど、様々な便りの発行を充実させている
 - 70%以下の評価となっている項目は三者(保護者・生徒・教職員)のなかにはありませんでした。個々にみていくと、肯定率が80%以下の項目は前期の2項目から1項目に減少しました。
 - ・78.8%(生徒) 私は、授業や家庭学習において前向きに学習活動をしている

前期に保護者のアンケートで77%であった「学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う」については、1学年の職業講話をはじめとする各学年の総合的な学習の時間での取組により、82%と5ポイント上昇しました。

3 三分類(「概ね良好」「努力したい」「改善が必要»)した評価について

(1) 総括

三者の総合平均点を比較すると、生徒の評価が最も高く、総合平均が3.46でした。(昨年度より+0.09、前期より+0.06) 教員の評価は3.3(前期より+0.09)、保護者の評価がやや低く、総合平均で3.16でした。昨年度の保護者評価の総合平均より0.02ポイント向上しました。(前期よりは-0.02となっています。) 質問項目を今年度変更したところがあるので、すべてを比較することはできませんが、項目ごとに見ると、昨年度と比較して上がっている項目が多く見られました。『生徒は前向きに授業に取り組んでいると思う』

『先生方は、いろいろな問題を見逃さずに対応し、家庭との連絡を密にするとともに、生徒からの相談に適切に応じている』『生徒は互いに協力し、行事や生徒会・委員会・学級活動を活発に進めていると思う』『相手の良いところを見て、仲間やお年寄りに思いやりの心を持つように努力していると思う』の4項目は、前年度と比較して大きく向上しました。一方、前年度と比較して、下がった項目は、前期は2項目でした。『生徒は前向きに授業や家庭学習に取り組んでいると思う』は、後期になってもまだまだ改善されていないので、やはりしっかりとした取り組みの必要性を感じています。『自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』は生徒、保護者とも上昇しているので、主体的・対話的で深い学びを実現しようとする校内研究を中心とした取組の成果がでていていると思います。

平均値が低かった項目をみると、生徒・保護者ともに『授業や家庭学習において前向きに学習に取り組んでいる』が低く、生徒の質問のなかでは同様に最も平均値が低く、提出物についても低いという結果でした。前期に保護者のアンケートで77%であった『学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う』については、1学年の職業講話をはじめとする各学年の総合的な学習の時間での取組により、82%と5ポイント上昇しました。

(2) 「概ね良好」(3.0以上)の評価について

* 保護者、生徒、教職員に共通する10項目すべて3.0以上の評価でした。

- ・生徒は前向きに授業に取り組んでいる
- ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
- ・授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある
- ・学校は、時間・あいさつ・言葉づかい等のルールやマナーの大切さ、よりよい生活習慣を指導している
- ・先生は、いろいろな問題を見逃さずに対応し、家庭との連絡を密にするとともに、生徒からの相談に適切に応じてくれる
- ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てようとしている
- ・行事や生徒会活動、部活動を通して一人ひとりの生徒のよさを発揮させ、体を動かすことの楽しさや体力づくりの大切さを指導している
- ・生徒の健康管理や安全に配慮している
- ・学校行事や生徒会活動、部活動は生徒にとって充実した活動になっている
- ・学校・学年だよりや保健・図書だよりなどの発行を充実させ、PTAの会合でも、学校の取組を知らせている

(3) 「努力したい」(2.5以上3.0未満)の評価について

三者がそろって2.5以上3.0未満の評価をした項目は、後期ありませんでした。前期のアンケートでは、保護者の方から『自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』という授業の実施については肯定率が低かったのですが、前述のように感染症対策をしながら、「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業改善に校内研究を中心に取り組んできた結果、改善されたと考えています

さらに「授業と家庭学習の有機的な結びつき」「学びの大切さ」などを切り口に、生徒とともに「家庭学習の習慣化」「学力向上」について「家庭学習スタンバイ」の取組を全校体制で行っていきたいと考えています。

(4) 「改善が必要」(2.5未満)

今回のアンケート調査の結果で平均値以下の2.5未満の項目はありませんでした。

4 成果と課題について

(1) 【成果】今年度取り組んだ事への評価と考察

今年度、重点課題として、①「学びに向かう力、人間性等の涵養。言語活動の確実な育成を図るとともに、学力の向上を図る」②「基本的な生活習慣の確立とともに、いじめ・虐待の早期発見、および、不登校の解消の推進」③「自ら運動を実践する態度を育成し、体力向上を図る」④「開かれた学校づくりを推進し、保護者・地域に根ざした教育活動を展開する」の4点を設定しました。

①については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループ活動等の制限が多く、また教育課程を実施することを優先したため「主体的・対話的で深い学び」の授業改善や「言語活動の充実」などになかなか取り組むことができなかった。しかし、感染症対策を行いながら、少しずつ目標達成のために努力を続けてきました。また、校内研究に全教職員が積極的に取り組み、「学力向上」や「家庭学習の習慣化」の項目を改善すべく取り組んできました。指導主事を招聘し、授業研究会(教科と道徳)を2回行ったり、それとは別に授業と家庭学習を有機的に結びついていくことを学んだり、道徳の評価について学習会を行いました。家庭学習の推進のために「家庭学習スタンバイ」の取組を開始しました。まだまだアンケート結果からは家庭学習の定着に課題がありますが、教職員の一人一実践を基本とした授業改善とあわせ、これからも生

徒の学力向上を図っていきたいと思います。

②については道徳教育推進のために、各学年の実態から価値項目をそれぞれ選び、学校全体として大切にしていって価値項目と合わせ、今年度は特別の教科・道徳の授業を計画しました。生徒理解のために i-check や生活アンケート等を行い、生徒の実態把握や学級集団について分析を行うことができました。また、今年度「学級づくり」の研修会を教職員対象に実施するなど、生徒同士、生徒と教師の信頼関係を大切に考え、教育活動を行ってきました。さらに、豊かな心やしなやかな心の育成のために、11月には菊池省三先生を招聘し、教職員が、子どもたちと一緒に学んでいく機会をつくることができました。一人一人の生徒にとっての居場所づくり、不登校生徒を生まない学級づくりへの取組を来年度は大きな柱に設定し、さらに進めていきたいと考えています。

③については、感染症対策等を生徒と一緒に考え、自他の生命を守る態度の育成を日々行ってきた。今年度は、感染症のために多くの行事や部活動の大会が中止になりました。しかし、学園祭をはじめとして、感染症対策等を行いながら学校教育目標達成のために必要な行事については、工夫をしながら、実施してきました。前例のない取組となり、教職員には負担をかけているとは思いますが、全校生徒、保護者の協力や理解を得ながら貴重な素晴らしい取組を行うことができました。これからも教育活動を守るために教職員が力を合わせ取り組んでいきたいと思います。

④については、今年度も毎月第一月曜日に保護司・更生保護女性会の皆様・生徒会・教職員が協力して、あいさつ運動に取り組みました。「あいさつ」は子どもたちが将来社会に出てからもとても大切なものです。今後様々な機会を通じて、十分な定着をめざしていきたいと思います。来年度はPTAとも連携をしながら、さらに大きな輪になるように考えていきたいと思います。一年間見てきましたが、保護司・更生保護女性会・保護者・生徒会役員による「あいさつ運動」は非常に効果的だと思います。また、PTA役員による「あいさつ運動」にもご協力をいただきました。これらの素晴らしい取組を継続するとともに、「あいさつの意義」を生徒たちに考えさせる機会を設けていきたいと考えています。また感染症の関係で、前半は実施できなかった地域の方々を招いての「保護司に学ぶ会」、音楽科の授業において2名の講師を招いての「伝統音楽(琴)の授業」、「職業講話」等を実施することができました。また、授業参観も後期に実施することができました。さらに、今年度はHPを充実させ、臨時休校中の学習についての時間割や各種情報について定期的に更新するなど情報発信に努めてきました。学校だより等各種便り等も積極的に公開しています。これからも学校が積極的に情報を発信し、学習面や生活面等を含め、一人ひとりの生徒の成長のために、家庭との連携協働体制を推進していきたいと考えます。

(2) 後期に重点化した取組と来年度の取組について

「学力向上・家庭学習の習慣化」「学級集団づくり」「キャリア教育」の3点を後期の重点課題とし、取り組んできました。

①『学力向上・家庭学習の習慣化』

学力向上は学校教育の根幹であると考えます。来年度も校内研究のテーマとして掲げ、全職員一丸となり、生徒・保護者とともに取組をしていきたいと考えています。

<具体的な取組>

- ・「授業のめあてを示し、振り返ること」「授業と家庭学習を有機的に結びつけること」「言語活動（自分の考えについて根拠を示して書くこと・話し合い活動で考えを広げること等）を効果的に取り入れる」など、授業改善を高い次元で実施していきます
- ・生徒が達成感や成就感を持てる授業を工夫する
- ・生徒に一人一人に気を配り、個に応じた学習指導を進める
- ・言語活動を効果的に取り入れる
- ・家庭学習の手引きの活用
- ・スクールライフの活用
- ・家庭学習スタンバイの取り組み
- ・「学びの甲斐善八か条」（県教委）を活用した取り組みの実施
- ・家庭生活（スマホ・TV・ゲーム・携帯電話利用等）について生徒とともに考える機会を設定する。保護者にも協力をお願いする

[担当] 研究主任、学年研究担当

校内研究を通して、生徒が自ら問いを発し、協働により、課題を解決していく「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行い、達成感や充実感の持てる授業実践を目指し研究を進めることができました。生徒が主体的に授業に取り組むことができるように、授業改善に引き続き取り組んでいきたいと考えています。また、授業と有機的に家庭学習を結び、自分から課題を見つけられ、学習を学ぶ姿勢を育成したいと考

えています。

生徒の家庭学習の調査によると、学習時間は二極化しており、家庭学習を継続している生徒が増加している反面、そうでない生徒の割合も増加しており、課題となっています。来年度は「家庭学習スタンバイ」の取組を日課表に位置付け、自ら課題を設定して取り組むことができるように指導をしていきたいと考えています。icheckの結果を分析すると3学年とも共通して、「生活習慣」「学習習慣」は数字があまり高くないことがわかります。家庭の協力を得ながら、生徒自らが自分の目標に向かって自分自身を向上させていくように支援していきたいと考えています。

②『学級集団づくり・学級経営の充実』

教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係がすべての教育活動の土台となることを考え、学級集団づくり・学級経営の充実に取り組んできました。校内研究の柱に設定し、教職員対象の学習会などを行ってきました。

<具体的な取組>

- ・各種検査の分析（icheck、生活アンケート、家庭学習アンケート）
- ・各学級での自己肯定感・自己有用感を高める取組（ほめ言葉のシャワー・成長ノート・価値語等）
- ・学校行事や部活動などを活用した活躍できる場面の設定
- ・学級づくりの研修会「菊池省三先生を招いての研修会」の実施
- ・道徳教育の推進

[担当] 研究主任、学年研究担当

icheckの結果を分析すると全国平均をほとんどの項目で上回っているものの「充実感と向上心」「感動体験」「対人ストレス」「生活習慣」「学習習慣」は数字があまり高くないことがわかります。「充実感と向上心」「感動体験」については、新型コロナウイルスの影響で行事や大会等が少なくなった影響もあると思いますが、日常の学校生活の中での様々な取組のなかで、このような体験や経験ができるような取組を考えていきたいと思えます。どの学年も「学級の絆」の項目が前期よりも上昇していました。調査結果から、このことが「対人ストレス」の軽減に影響していると思えます。生徒一人ひとりに自己肯定感や自己有用感を持たせる取組を、これからも工夫し、一人ひとりのよさや可能性を生かすように努めていきたいと考えています。菊池省三先生から学んだことを次年度活かし、さらに活動を推進させていきたいと思えます。

③『キャリア教育の推進』

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育課程を変更せざるを得ない状況があり、総合的な学習の時間等を使って計画していた講師を招いての学習等、キャリア教育を計画通り進めることができませんでした。生徒・保護者のアンケートの結果からもそれがよくわかります。そこで、後期はキャリア教育や自分の将来について考えていく学習の機会を増やしていく工夫を行いました。

<具体的な取組>

- ・親子進路学習会の実施（3年生）
- ・各学年の総合的な学習の時間や学活を活用したキャリア教育の実施
- ・講師を招聘しての職業講話（1年生）

前期に保護者のアンケートで77%であった『学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う』については、1学年の職業講話をはじめとする各学年の総合的な学習の時間での取組により、82%と5ポイント上昇しました。生徒一人ひとりが10年後、20年後の自分を意識し、「公社会で通用する人間」に成長していくようにするという目標を、全教職員で年度当初確認を行いました。来年度もこの視点を忘れずに、学校教育目標達成のため、教育活動全般で取り組んでいきたいと考えています。

5 第二回学校運営協議会でいただいたご意見・ご指導内容

○学校評価の年2回実施について

【意見】年間2回行うことは忙しい中だと思うが前向きな実施でとても良いと思う。従来年1度で振り返りを行っても、課題を解決するには、次年度になってしまい、職員も変わってしまう。前期後期で2回評価をすることで、課題に向けて、年度内にPDCAサイクルを実践することができる。

○家庭学習の新しい取組について

【意見】家庭学習の取組において「家庭学習スタンバイ」の取組はとても良いと思う。6月からスタートして、教育課程をこなすのに、精一杯な状況の中、家庭学習の充実や、授業においても主体的・対話的で深い学びを意識した授業を実践し、意識している結果が、今回の生徒や保護者の評価に出ていると思う。授業と家庭学習とを有機的に結びつけてほしいと思うので、家庭学習スタンバイの取組はとてもよいと思う。成果につながることを期待している。

○菊池先生をお招きしての公開授業について

【意見】全国的にもたいへん有名な先生を招いての研究会の実施はとても素晴らしい。先生方が行う道徳の授業において、大幅なスキルアップやご指導・ご示唆をいただけたと思う。学校教育目標の実現のためにも先生方には、ぜひ引き続き勉強をしていただきたい。

○新型コロナウイルスへの対応について

【意見】中央市教育委員会でも休校から再開に向けての予算措置等、集団生活を行う上で、必要になることなどを検討してきたが、まだまだ完全ではないところがある。市教委としても学校側の要望について、積極的に協力できるところは協力していきたい。

○コミュニティスクールの未来について

【意見】コミュニティスクールを実現していくために、この会全体で、田富中の課題について解決策を考えていくことが必要なのではないか。例えば、主任児童委員の立場の者は、毎月の民生委員の定例会に参加し、田富中の現状についての話をし、田富中のことを知ってもらうことで、地域の理解を得ることができると思う。こういう取組が、地域で子どもたちを育てる意識が生まれるのではないかと考える。発足1年目でもあるので、これからも学校側と共に、一緒に考えていき、よい方向へと進むように互いに尽力していきたい。

○市への要望事項について

【意見】市の要望事項について、グラウンドやテニスコートの整備が毎年挙げられているが、なかなか改善しない現状がある。社会教育等地域を巻き込んで要望していく方がよいと思う。また、市教委でも必要な場所に必要予算がつくように引き続き努力していきたいと考えている。
これまで敷地内でのたばこの吸い殻や割れた瓶の散乱など、部外者による心ない行動が非常に多く見受けられた。そこで、市では、子どもたちの学校生活を守るために、防犯カメラを設置していくことになった。このように、市教委では、学校や保護者、地域の声に寄り添いながら、これからも学校を支えていきたいと考えている。

6 その他

(1) 三者からの回答数

・生徒	402名	回収数	377名	(回収率	94%)	理由：欠席・無回答
・保護者	402名	回収数	325名	(回答率	81%)	
・教職員	37名	回答数	37名	(回答率	100%)	

(2) ご意見ご要望について

今年度は、長い臨時休校等があり、教育課程や学校行事等も変更や工夫を行う中でこれまで学校運営を行ってきました。保護者の皆様方におかれましては、感染症対策等にご協力いただきながら、本校の教育活動にご理解とご支援をありがとうございました。

本年度も多くのご意見ご要望をいただきました。様々な考えがあることを十分に理解することができました。「学力向上」や「生徒指導」等への学校への期待を読み取ることができましたので、改善できるところは、これからも全職員で改善点を確認し、教育活動にあたっていきます。お寄せいただいた要望事項の対応については、これからまたは来年度の学校運営の中で取り組んでいきたいと思っております。学校運営協議会（コミュニティスクール）から、これらの自己評価や生徒・保護者のアンケート結果をもとにご意見やご指導をいただき、来年度の学校経営・学校運営に活かしていきたいと考えています。

今年度、要望をしてきた防犯カメラを市のほうで設置していただきました。またスクールフェンス・体育館の扉の工事・被服室のエアコン、コロナ対策の空気清浄機・工業用扇風機・消毒等の消耗品など心配をしていただきました。有効に活用させていただきたいと思っております。特に、防犯カメラを設置していただいてから外部からのいたずら等も減少し、ほとんどない状況となりました。教育委員会をはじめご尽力いただいた関係者の方々に御礼申し上げます。

来年度も「中央市の教育の基本『まごころ』」「校訓『誠実』」「学校教育目標『豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』」を基本に教育活動を推進してまいります。保護者の皆様のご意見を学校教育に活かすことは非常に大切なことであると考えています。今後ともご理解とご協力、ご支援をお願いいたします。

<参考資料> icheckの結果（2回目）

		1年	2年	3年
自己認識	家族のささえ	51.2	52.9	51.4
	友達のささえ	51.2	52.8	50.6
	先生のささえ	53.4	54.2	52.1
	①成功体験と自信	50.5	53.1	50.3
	②充実感と向上心	48.6	51.2	49.8
	③感動体験	49.2	52.2	49.1
	④他者からの評価	52.4	52.6	51.5
社会性	⑤規範意識	52.2	53.7	52.8
	⑥思いを伝える力	51.5	53.6	52.5
	⑦問題解決力	50.4	53.0	51.1
	⑧社会参画	52.7	54.0	53.1
学級環境	学級の規範意識	51.1	56.9	50.9
	⑨学級の絆	54.7	57.4	52.4
	いじめのサイン	52.7	53.0	50.9
	対人ストレス	50.0	50.6	48.4
生活・学習習慣	⑩生活習慣	50.6	50.3	51.0
	⑪学習習慣	48.2	50.3	49.4
平均		51.2	53.0	51.0

*全国平均を50としています。黄色の項目は1回目の調査よりも上昇したものの、青色は下降した項目になります。

7 第三回学校運営協議会でいただいたご意見・ご指導内容

①学校評価について

【意見】学校評価の資料を見ただけで、学校経営に真摯に向き合っていることが伝わり、分析もとてもわかりやすい。来年に向けての目標として、菊池先生の研修を柱として、学級経営や居場所づくりに重点を置くことが書かれているが、ぜひ方策をとってもらいたい。

【回答】学校教育目標達成のために、来年度の学校経営のなかに具体的な取組を設定し、これまでの取組の継続や新規の取組を来年度も前向きに行っていきたい。

【質問】防犯カメラの位置を教えてください。

【回答】正面玄関、体育館・校舎の間の東側、配膳室、池の付近の計4台

【意見】i-checkの結果で1回目と2回目で特に1年生の結果が下降していることが気になる。

【回答】中学1年生に関しては、年度初めに約2ヶ月間の休みもあり、中学校生活が何となく始まってしまった。5月に予定していた宿泊学習も実施できず、集団づくりの基礎をつくるができなかった。再開後も通常の学校教育にも制限等があり、1年生には戸惑いがあったと思う。本来ならば相談ごとがあったり、中学校生活に不安を抱えた生徒も中学校の担任に相談してよいのか迷ってしまう状況が続いてしまったのだと思う。（臨時休校が5月下旬まで続き、学校生活を送ることができなかったため）中学校生活のスタートが臨時休校からというのは、今の中学校1年生だけであることを考えていかなければならない。また、校歌を歌う機会もなく、1年生はいまだに覚えられていない現状がある。現在は比較的順調に学校生活を送っているが、結果については真摯に受け止め、帰りの会等を利用して、お互いのいいところを認め合うような取り組みを学年全体で行っていくなど対策の必要を感じる。

【意見】コロナ禍の休校で一番大きな影響があったのは、心細さや頼りどころがないところを考えると中学校1年生の子たちではないか。是非ともケアをお願いしたい。

【回答】全校体制で、または学年でまとまった取組を行っていき、ケアをしていきたいと考えている。ただ、どの学年も『先生のささえ』については、1回目の調査より2回目の調査の数字が大きく上昇しており、学級担任を中心とした先生方の取組の成果がでていっているように思う。しっかりと振り返りをしながら来年度に活かしていきたい。

【意見】防犯カメラの要望はずっとあったが、市や教育委員会として学校の実情によって必要な措置をとらせてもらった。何かあってからでは遅いということで、設置のために財政課にはたらきかけた。実情に合わせて、徐々に中央市内の他の学校への設置も考えていきたい。

【回答】市、教育委員会のご尽力により、設置することができたお陰で外部からのいたずらがなくなり、たいへん感謝している。生徒が安心して生活ができるような環境を整えるために、これからも市教委の協力を得ながら進めていきたい。

【質問】学校評価のデータの的にも落ち着いて学びを深めていることがわかる。家庭学習の定着に向けた「家庭学習のスタンバイ」について具体的に取組の仕方を教えてほしい。

【回答】帰りの会の時間をのばし、その日のうちに今日の家庭学習でどんなことをするのか計画を立てる。自ら学習することが難しい子もいると思うので、宿題以外で教科ごとプリントを出してもらおう等の対応をしていく。お家の人にもチェックしてもらえるような体制づくりを考えている。現在は、学年によって、クラスによって取組の差があるので、来年度以降は全学年で統一して取り組んでいきたい。

②令和3年度学校経営方針について

【意見】重点施策の中の基礎学力向上のために少人数指導はぜひ継続、実現させてもらいたい。

【回答】今年度数学については2、3年生で行うことができた。特に3年生では成果がでていたように思う。是非とも継続していきたい。

③令和3年度の活動について

特になし

④意見交換 他

来年度の学校運営協議会について

・コロナの影響で制限があったため、令和3年度は学校を見ていただく機会を増やしていく予定。学校教育

目標達成のために、どんなことができるか模索していきながら、来年度以降も学校経営運営協議会を進めていきたい。

【意見】 コロナの影響で、気を遣うことが多くなり、先生方の負担も増大していると思う。先生方が元気でない、子どもたちも元気に生活ができないと思う。ぜひ管理職の先生を中心に、先生方の心にゆとりが持てるような環境づくりをしていただくなど、配慮をお願いしたい。

【回答】 コロナへの対応で先生方の負担は増大している。互いに助け合いながら、これからも先生方の負担については配慮をしていきたい。

【意見】 学校評価の結果からもわかるように全体的に良い方向に向かっていると感じている。資料もとても見やすいので、来年度以降も継続できるようにがんばってもらいたい。学校評価の年2回実施についても同様にしていってほしい。

【回答】 来年度も今年度と同様に年2回の学校評価を行い、課題への対応をしていきたい。

【意見】 年間2回行うことは忙しい中だと思うが前向きな実施でとても良いと思う。従来の年1度で振り返りを行っても、課題を解決するには、次年度になってしまい、職員も変わってしまう。前期後期で2回評価をすることで、課題に向けて、年度内にPDCAサイクルを実践することができる。

【回答】 来年度も課題解決に向けてPDCAサイクルを大切にしていき、よりよい学校運営を目指していきたい。